

平成 26 年度

移住定住プロジェクト研修

子どもの声が響く上石津に ー移住・定住の取り組み

報 告 書

	年 月 日	研 修 会 議 名	参加 人員	備 考
	平成 26 年 12 月 9 日(水) 19:30~21:00	移住定住プロジェクト会議	27 名	上石津地域事務所
①	平成 27 年 1 月 21 日(水) 19:30~21:00	第 1 回移住定住研修会 子どもの声が響く上石津に 移住・定住の取り組み 入門編	40 名	講師：名古屋大学大学院教授 高野雅夫博士 上石津地域事務所
	平成 27 年 2 月 4 日(水)	平成 26 年度 「地域の世話役養成塾」	5 名	岐阜県主催 岐阜県図書館
②	平成 27 年 2 月 12 日(木) 19:30~21:00	第 2 回移住定住研修会 子どもの声が響く上石津に 移住・定住の取り組み 実践編	40 名	講師：名古屋大学大学院教授 高野雅夫博士 上石津地域事務所
③	平成 27 年 2 月 21 日(土) 7:45~18:00	移住定住プロジェクト研修視察	33 名	愛知県豊田市足助地域・旭地域

上石津まちづくり協議会

―移住定住プロジェクト研修事業について―

大垣市上石津地域では、以前より人口減少・小学校の存続に危機を感じ、移住定住の取り組みを課題として取り上げていた。上石津地域の時地区が、平成 25 年度に移住定住推進委員会を発足。世話役を設け、岐阜県主催の相談会などに参加し、移住者の増加につながっている。しかし、他の 3 地区（牧田、一之瀬、多良）には具体的な動きがなく、上石津地域全体としての移住定住の促進活動が行われていないのが現状である。

上石津まちづくり協議会では、平成 26 年 9 月 29 日に全体会を開催。あらためて「移住定住」を地域全体の最重要課題として位置づけた。連合自治会の協力も得て、平成 26 年 12 月 9 日「移住定住プロジェクト」を立ち上げた。プロジェクトでは、現在の移住定住活動の問題点を解決するとともに、上石津地域全体に活動範囲を広げ、移住希望者の受け入れ体制の整備等を行い、上石津地域全体の移住定住促進、地域活性化につなげるため、「移住定住（促進人材養成）研修事業」を計画し短期間に集中的に実施した。



■平成 26 年 9 月 29 日開催 上石津まちづくり協議会全体会の様子

研修の講師については自治体や企業、NPO に対して持続可能な地域づくりのための様々なコンサルティング活動を進め、先進的な取り組みで実績をあげている豊田市中山間地域の移住定住事業に実際にかかわり、また、上石津地域でも「緑の村公園リノベーション計画」「九里半街道牧田宿における調査研究事業」などにかかわっている、名古屋大学大学院環境学研究科教授高野雅夫（たかのまさお）博士に依頼。タイトルは、「子どもの声が響く上石津に―移住・定住の取り組み―」とし、①「入門編」、②「実践編」、③「研修視察」3 回の研修を計画し実施した。

- ① 入門編は、上石津の人口の将来推計を考えながら、取り組み方、障害、かんどころなど、豊田市や長野県、岡山県などの先進事例を研修。
- ② 実践編は、愛知県豊田市の中山間地域における空き家活用の手法、空き家バンク、移住者や地域住民の思いなどを紹介しながら、具体的にまず何をやればいいのかを研修。後半は、上石津地域移住定住実践者とのトークセッションを実施。
- ③ 視察研修は、①入門編⇒②実践編の締めくくりとして実際に、愛知県豊田市の中山間地域（足助地区・旭地区）の取り組み、施設、人などを視察研修。

☆また本研修と平行して、岐阜県が主催する「平成 26 年度地域の世話役養成塾」に 4 地区から 1 名ずつ、計 4 名が参加した。

本事業の実施にあたっては、岐阜県自立的まちづくり応援補助金を申請し平成 26 年 12 月 17 日付けで交付決定を受けた。

移住定住プロジェクト会議

主 催：上石津まちづくり協議会

日 時：平成26年12月9日（火）19：30～21：00

場 所：上石津地域事務所2階2-1会議

参加者：27名

上石津まちづくり協議会：顧問、相談役、会長、副会長、書記、会計

移住定住プロジェクトメンバー【16名（内協議会会員5名）】

大垣市役所：・まちづくり推進課・上石津地域事務所地域政策課

○開会あいさつ：阿藤会長

上石津まちづくり協議会について発足から現在までの経緯を説明。

今回あらためて、「移住定住」を上石津全体の最重要課題に位置付けプロジェクトのメンバーとして各地区から集まっていたことを説明。

○自己紹介

上石津まちづくり協議会会員及び移住定住プロジェクトメンバー自己紹介

○10分間アンケート

上石津のいいところ、わるいところ、チャッチフレーズアンケート

○移住定住プロジェクトについて：高桐副会長

上石津地域の移住定住取り組みの経緯。他市町村の状況、大垣市の状況を説明。

プロジェクトの役割は、まず研修を実施し、知識を得てから、現状と課題を把握し、上石津全体としての取り組みの方向性を探り、各地区の事情に対応した事業にしていく提言をおこなうこと、と説明。

○今後の予定について：事務局

1月～2月にかけて入門編、実践編、視察、3回の研修会を計画。

講師は名古屋大学大学院教授高野雅夫博士に依頼することを説明

○その他について：事務局

時地区の取り組み状況を補足説明。

○閉会



■移住定住プロジェクト会議の様子

第1回移住定住研修会

子どもの声が響く上石津に ー移住・定住の取り組み 入門編ー

主催：上石津まちづくり協議会

日時：平成27年1月21日（水）19：30～21：00

場所：上石津地域事務所2階2-1会議

講師：名古屋大学大学院環境学研究科教授 高野雅夫博士

参加者：40名

上石津まちづくり協議会、顧問、相談役会員、

上石津まちづくり協議会、移住定住プロジェクトメンバー

大垣市役所職員（まちづくり推進課・上石津地域事務所地域政策課・上石津地域各支所長）

○開会あいさつ：阿藤会長

○講師紹介：事務局

○講演：高野教授

- ・都市化によって荒廃する里山の景観

都市／農村人口推移

里山の土地利用の変化等

- ・高齢化—人口減少をどうとらえるか

上石津の人口予測、

人口予測からみた地域の将来像

- ・逆都市化をめぐる議論

都市住民の農山漁村への定住願望

岡山県西粟倉村・長野県阿智村

- ・逆都市化をどう進める？

愛知県豊田市の取り組み

中山間地住民と都市住民との新たなコミュニティー

豊田市空き家情報バンク

若者よ田舎をめざそうプロジェクト

社会実験 千年持続学校

- ・子どもの声が響く上石津をつくるには

○事務局からの連絡：事務局から今後の研修日程内容などについて。

○閉会あいさつ：高桐副会長

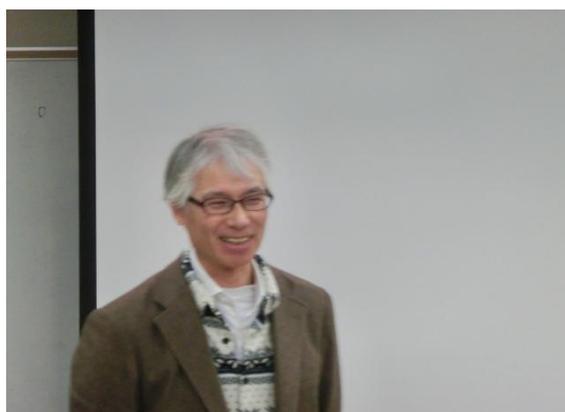
■平成27年1月21日（水）開催 第1回移住定住研修会事業写真 ①



■阿藤会長開会あいさつ



■顧問あいさつ



■講師 高野博士



■講師

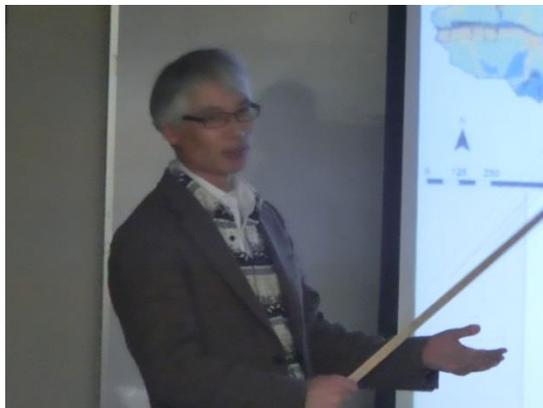


■里山土地利用の変化



■研修風景

■平成27年1月21日（水）開催 第1回移住定住研修会事業写真 ②



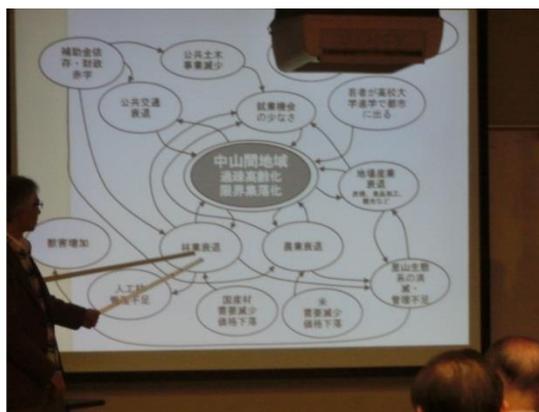
■講師



■人口シミュレーション



■研修風景



■中山間地域 過疎高齢化 限界集落化図



■講師



■研修風景

平成26年度「地域の世話役養成塾」

主 催：岐阜県清流の国推進部清流の国づくり政策課

日 時：平成27年2月4日（水）13：30～16：30

場 所：岐阜県図書館 研修室（岐阜市宇佐4-2-1）

目 的：市町村から推薦のあった候補者等が一堂に会し、先進的な取組に関する情報収集や世話役相互のネットワークづくりを行う「地域の世話役養成塾」を開講することにより、受入地域の体制を強化する。

上石津地域からの参加者

高桐秀夫（上石津まちづくり協議会副会長）後藤 清（上石津まちづくり協議会相談役）

松島頼子（上石津まちづくり協議会監事）・近藤 茂（上石津まちづくり協議会移住定住プロジェクト）

辻下尚毅（上石津地域事務所地域政策課）



■世話役養成塾の様子（岐阜県図書館2階研修室）

講座① 13：35～14：05「移住しての子育てと地域づくり」

（石徹白地域づくり協議会 平野彰秀さん）

講座② 14：05～14：35「子育て世帯における地方移住の実態と課題」

（NPO法人れいほく田舎暮らしネットワーク 事務局長 川村幸司さん）

講座③ 14：45～15：00「清流の国ぎふ移住定住コンシェルジュとしての活動」

（NPO法人 奥矢作森林塾 理事長 大島光利さん）

講座④ 15：00～15：15「清流の国ぎふ移住定住コンシェルジュとしての活動」

（郡上市交流・移住推進協議会 専従職員 小林謙一さん）

意見交換 15：15～16：30

2班（高桐、近藤）（後藤、松島、辻下）に分かれて意見交換、質疑など

第2回移住定住研修会

子どもの声が響く上石津に ー移住・定住の取り組み 実践編ー

主 催：上石津まちづくり協議会

日 時：平成27年2月12日（木）19：30～21：00

場 所：上石津地域事務所2階2-1会議

講 師：名古屋大学大学院環境学研究科教授 高野雅夫博士

参加者：40名

上石津まちづくり協議会顧問、相談役、会員、移住定住プロジェクトメンバー
大垣市役所職員

・まちづくり推進課・政策調整課・都市施設課

・上石津地域事務所地域政策課・上石津地域各支所長

名古屋大学教授及び生徒、地域再生機構職員

○開会あいさつ：阿藤会長

○講 演：高野教授

☆豊田市中心間地の取り組み

・しきしまときめきプラン

プランとは

私と家族の将来像アンケートから

自慢と困りごと

目指す将来像

しきしまくらしの作法

アクションプログラム2015～2019

チャレンジプロジェクト

分野別計画 定住促進

・豊田市おいでん・さんそんセンターの移住定住の取り組み他

・トークセッション（講師のインタビュー形式による）

移住実践者：雨宮さん、野中さん

受け入れ実践者：桑原時連合自治会長、伊藤時公民館長

○質疑応答：・受け入れ組織などについて。

・子育て世代の受け入れ、リタイヤ世代の受け入れについて他

○事務局からの連絡：事務局から先進地視察について

○閉会あいさつ：高桐副会長

■平成27年2月12日（木）開催 第2回移住定住研修会事業写真 ①



■講師



■研修風景



■研修風景



■講師



■研修風景



■トークセッション風景

■平成27年2月12日（木）開催 第2回移住定住研修会事業写真 ②



■トークセッション 野中さん



■トークセッション風景



■トークセッション 雨宮さん



■トークセッション 桑原連合自治会長



■トークセッション 伊藤公民館長



■講師

第1回移住定住研修会

子どもの声が響く上石津に ー移住・定住の取り組み 入門編ー

主 催：上石津まちづくり協議会

日 時：平成27年1月21日（水）19：30～21：00

場 所：上石津地域事務所2階2-1会議

講 師：名古屋大学大学院環境学研究科教授 高野雅夫博士

参加者：40名：上石津まちづくり協議会、顧問、相談役会員、移住定住プロジェクトメンバー
大垣市役所職員（まちづくり推進課・上石津地域事務所地域政策課・上石津地域各支所長）



○開会あいさつ：阿藤会長 ○講師紹介：事務局

○講 演：高野教授

・都市化によって荒廃する里山の景観：都市／農村人口推移、土地利用の変化等・高齢化一人
口減少をどうとらえるか：上石津の人口予測、地域の将来像・都市化をめぐる議論：農山村
への定住願望・逆都市化をどう進める？：豊田市の取り組み・子どもの声が響く上石津をつ
くるには

○事務局からの連絡：事務局から今後の研修日程内容などについて。

○閉会あいさつ：高桐副会長

第2回移住定住研修会

子どもの声が響く上石津に ー移住・定住の取り組み 実践編ー

主 催：上石津まちづくり協議会

日 時：平成27年2月12日（木）19：30～21：00

場 所：上石津地域事務所2階2-1会議

講 師：名古屋大学大学院環境学研究科教授 高野雅夫博士

参加者：40名：上石津まちづくり協議会顧問、相談役、会員、移住定住プロジェクトメンバー
大垣市役所職員（まちづくり推進課・政策調整課・都市施設課・上石津地域事務所
地域政策課・上石津地域各支所長）、名古屋大学教授及び生徒、地域再生機構職員



○開会あいさつ：阿藤会長

○講 演：高野教授・豊田市中心間地の取り組み：しきしまときめきプラン、豊田市おいでん・さんそんセンターの移住定住の取り組み他、・トークセッション：移住実践者：雨宮さん、野中さん：受け入れ実践者：桑原時連合自治会長、伊藤時公民館長

○質疑応答：受け入れ組織などについて。

○事務局からの連絡：事務局から先進地視察について

○閉会あいさつ：高桐副会長

移住定住プロジェクト研修視察

豊田市足助地区、旭地区

主催：上石津まちづくり協議会

期日：平成27年2月21日（土）

視察先：愛知県豊田市足助地区、旭地区

講師（バグイト）：名古屋大学大学院環境学研究科教授 高野雅夫博士

コーディネーター：豊田市おいでん・さんそんセンター 西田又紀二氏

参加者：33名：上石津まちづくり協議会相談役、会員、移住定住プロジェクトメンバー他
大垣市役所職員（まちづくり推進課・上石津地域事務所地域政策課・上石津各支所長）

バス内

○あいさつ：阿藤会長

：上石津地域事務所 片岡所長

○事務局から：日程説明、注意事項など

○現地集合：講師：高野教授、コーディネーター：おいでんさんそんセンター西田又紀二氏合流

○高野講師あいさつ、西田コーディネーター紹介あいさつ

○視察概要説明：高野講師

○施設見学「豊田市里山くらし体験館～すげの里～」【足助地区 豊田市新盛町中洞 67】

都市と農山村の交流を通じた中山間地域の活性化を目的として豊田市が「里山くらし体験館 すげの里」の整備し、平成23年5月からオープン。施設の計画には住民の意見も取り入れた。都市と農山村の交流や中山間地域への定住を進めることを目的とした里山での体験やふれあいの場。農業体験や宿泊体験など、交流、講座、研修などの会場として利用。里山をいかした様々な交流イベントを実施。自給自足によるかつての里山の暮らしを参考に、エコで自然にやさしい循環型の暮らしを意図した薪ボイラー、桧風呂、囲炉裏のある談話室、ピオトープなどが印象的。

○生業と暮らし見学 M-easyの戸田友介さん(1ターン)【福蔵寺 旭地区 豊田市太田町蟹田 6】

2009年9月、過疎高齢化を課題に抱える豊田市旧旭町へ、「日本再発進！若者よ田舎をめざそうプロジェクト」として移り住んできた。

多様な価値観を認め合い、自らが自分事として答えを出していく必要があるこの時代に、人や大地、地域とのつながりを取り戻し新しい未来を創っていくために「田舎で暮らす」という道を選択。ひとのあたたかさ、皆で地域をつくっていかこうとする気構え、豊かな自然と豊富な食や文化、手足を使い技を磨き五感で味わう暮らしを学びながら暮らす。

福蔵寺を中心にして様々な体験プログラムなどを実施。旭の暮らしをベースにした豊かさの再発見に取り組んでいる。

当日は味作り体験（豆っこクラブ）の準備をされていた。

○講義「農山村地域の現状と課題」【敷島会館 旭地区 豊田市杉本町奥西山 49】

講師：豊田市おいでん・さんそんセンター 鈴木辰吉センター長

- ・豊田市の概要・平成 17 年 4 月の合併・平成 12 年 9 月の東海豪雨
- ・農山村振興に向けた取り組み・現状、暮らし満足都市：都市部と農山村部 互いの強みを生かし、多様な暮らし方が選択できるまち
- ・おいでんさんそんセンター
- ・都市と山村の交流
- ・しきしまときめきプラン

○昼食 【敷島会館 旭地区】

木工家 first-hand の松島智子さん（1 ターン）の手づくり弁当
稲武地区への 1 ターン者

松島夫妻は first-hand という小さな家具工房を経営。

国産の無垢材を使い、家具や暮らしの道具を製作。

木工教室をはじめ、料理教室なども開催。

4 月にはカフェ+ショップ 「ヒトトキ -人と木-」を開店予定

当日は、手づくり弁当をケータリング

○施設見学 千年持続学校「宇宙（そら）の家」 【旭地区 豊田市大田町板取】

家主の下野智子さん（1 ターン）による住み開き

移住したい若い人が増えているが、実際に移住を実現できるのは、限られた一部の人。

①住むところがない②生業がない③医療機関がない④高校、大学などの高等教育機関がない。これらのカベに取り組み、若い人の移住を応援しようと、生まれたのが千年持続学校。住むところがないなら作ってしまおう。というのが 2011 年 9 月に開講した「住まい造り講座」。自然エネルギーと昔ながらの大工仕事によるちいさな家をつくった。受講料 5 万円×30 名＝150 万円が建築資金。受講生は自然エネルギーや大工技術を学びながら力を出し合い家を作った。家の住み手は、地元と話し合いの上、移住を希望する受講生の中から 2012 年の 9 月に決定。2014 年 11 月に完成。12 月から 3 年間の予定で下野さん一家が移り住んだ。

- ・生業がないならちいさな稼ぎをたくさん作ろう。③医療機関がないならできるだけ自然療法で。ということで、「住まい造り講座」と平行して自然療法を取り入れたワークショップ「心と体造り講座」を実施。他にも、間伐材を使用した小屋造りキットの「た

て前ごっこ」ワークショップや、小屋造りキットの販売も予定。

④通える高校、大学が少ないため、進学にあたり下宿し、地元を出てゆく子が多いという現状には、田舎の高等教育機関を作ろう。ということを経済目標としている。様々な人たちが千年持続学校という場に集まり、学び合うことから、地元の人、その子ども、Uターン者、都市の人、それぞれの学びたいことや、生活に密着した衣、食、住に関わることを専門的に学べる場となってゆくことを目指している。

太陽光、井戸、まきストーブ、かまど、などを使い生活する生活実験。

・お試し居住の家 板取の家

地域住民が主体となり「板取の家運営委員会」を組織し、田舎暮らし体験や農業体験の手伝いをしている。中山間地域に住むことに興味があるけれど、一歩踏み出せない人や農業体験をやってみたい人のために事業を実施。○使用料 1 団体 3,000 円、○宿泊：中学生以上 1 人 1 泊 1,000 円、小学生 1 人 1 泊 500 円

○東萩平町に見る地域住民の取組【東萩平町公民館 旭地区 豊田市東萩平町内垣内 11】

地区住民の安藤征夫さん講義 高野先生との対談

安藤さん：豊田市役所を早期退職して、地域の移住定住に取り組む。

○空き家発掘：■所有者に寄り添った交渉・調査・所有者との接点づくりなど■市役所との連携：市主導から地元主導へシフト・役所の存在が安心感■受け入れ態勢：・人口より人材・空き家に入れるのではなく地域に入れる・よそ者を受け入れる機運を高める

○暮らしの参観日の開催：■企画理由：・限界集落の自覚・空き家バンクの限界

○世の中の流れを感じる

○自分の課題は自分で解決

○自分が動かなければ人は動かない。

○地域おこしは人の数、パートナーを増やす。

○地域住民とよそ者が地域を考える仕組み

○メリットがなければやめる、無理に継続しない。

・東萩平町に見る地域住民の取組【東萩平町地内 旭地区 豊田市東萩平町】

地区住民の安藤征夫さんの案内で 空き家状況など町内散策

バス内

○事務局から：帰路の予定、アンケートの提出について

○あいさつ：高桐副会長

当日 視察実績		
時間	内容	場所
7:45	時支所出発	
9:50	現地集合場所到着○名古屋大学高野先生及びおいでん・さんそんセンター西田さん バスに同乗	香嵐溪 宮町駐車場 豊田市足助町宮平 26-1 0565-61-2300
	移動（宮町駐車場→すげの里）	
10:05	施設見学 「豊田市里山くらし体験館～すげの里～」	豊田市里山くらし体験館 ～すげの里～ 豊田市新盛町中洞 67 (足助地区)0565-69-1622
	移動（すげの里→福蔵寺）	
10:50	生業と暮らし見学●M-easyの戸田友介さ （1ターン）「豆っこクラブ」で味噌作り準備	福蔵寺 豊田市太田町蟹田 6（旭地区） 0565-68-3025
	移動（福蔵寺→敷島会館）	
11:35	講義「農山村地域の現状と課題」 ●おいでん・さんそんセンター鈴木辰吉センター長	敷島会館 豊田市杉本町奥西山 49 (旭地区) 0565-68-3100
12:25	昼食（木工家 first-hand の松島智子さん （1ターン）の手づくり弁当)	
	移動（敷島会館→千年持続学校）	
13:10	千年持続学校「宇宙（そら）の家」見学●家主の下野智子さん （1ターン）による住み開き ☆隣接する「旭の田舎暮らし体験施設板取の家見学	宇宙の家 豊田市大田町板取（旭地区） 「板取の家」
	移動（千年持続学校→東萩平町）	
14:00	東萩平町に見る地域住民の取組 ● 地区住民の安藤征夫さん 講義 高野先生と安藤さんによる対談	東萩平町公民館（旭地区）
14:40	東萩平町に見る地域住民の取組 ● 地区住民の安藤征夫さん 空き家状況など町内散策	東萩平町地区（旭地区）
15:10	香嵐溪 宮町駐車場へ トイレ休憩 ○名古屋大学高野先生及びおいでん・さんそんセンター西田さんバス下車。	香嵐溪 宮町駐車場 豊田市足助町宮平 26-1 0565-61-2300
16:00	帰路	
18:00	時支所到着	



■時地区出発→多良地区→一之瀬地区→牧田地区→バス内ミーティング



■現地到着 高野講師、西田コーディネータと合流。視察地へ



■豊田市里山くらし体験館 すげの里



■豊田市里山くらし体験館 すげの里



■豊田市里山くらし体験館 すげの里



■福蔵寺 生業と暮らし M-easy 戸田さん



■福蔵寺 生業と暮らし M-easy 戸田さん



■福蔵寺 生業と暮らし M-easy 戸田さん



■敷島会館 講義「農山村地域の現状と課題」おいでん・さんそんセンター鈴木センター長



■敷島会館 講義「農山村地域の現状と課題」おいでん・さんそんセンター鈴木センター長



■敷島会館 昼食 first-hand 松島さん手作り弁当



■敷島会館 昼食 first-hand 松島さん手作り弁当



■千年持続学校「宇宙（そら）の家」家主の下野さん



■千年持続学校「宇宙（そら）の家」家主の下野さん



■千年持続学校「宇宙（そら）の家」家主の下野さん



■「宇宙（そら）の家」に隣接する「旭の田舎暮らし体験施設 板取の家」



■東萩平町公民館 東萩平町に見る地域住民の取組 安藤征夫さん講義 高野先生との対談



■東萩平町公民館 東萩平町に見る地域住民の取組 安藤征夫さん講義 高野先生との対談



■東萩平町地内 東萩平町に見る地域住民の取組 空き家状況など町内散策



■東萩平町地内 東萩平町に見る地域住民の取組 空き家状況など町内散策

おいでん・さんそんセンター公式Face book より



おいでん・さんそんセンターさんが新しい写真 5 枚を追加しました

2/21(土)

上石津町まちづくり協議会の方々が、移住定住の視察に見えました。高野先生が案内役となって、様々な取り組みの現場を回りました。里山くらし体験館～すげの里～、福蔵寺で M-easy の戸田さんの取り組み、おいでん・さんそんセンターから「農山村の現状と課題」の講座、お昼ご飯は first-hand の松島知美さんの手づくりお弁当、千年持続学校「宇宙(そら)の家」下野さんの住み開き、東萩平町で安藤征夫さんの空き家発掘や移住者を受け入れ為の経験談。1日ツアーですが、盛り沢山の内容です。上石津町も木の駅プロジェクトに取り組まれていたり、人口減少問題には同じ悩みを持って取り組まれています。お互いに経験や知恵を共有し、交流を深めたいですね。(西田)



いいね！・コメントする

…さん、…さん、…さん、他 26 人が「いいね！」と言っています

多良(たら)の歳時記 なずなのふるさと日記 より

いざ、足助へ！ 上石津移住・定住プロジェクト研修視察

こんばんは。今日は、「上石津まちづくり協議会移住定住プロジェクト研修視察」で、香嵐渓で有名な愛知県豊田市の足助町へ行ったきたなずなです。上石津四地区で 33 名が出席。これだけの人数が視察に来るのは珍しいといわれました。それだけ、どこの地区も移住・定住問題に関する関心が高まっているということなのだと思います。片道約 2 時間は少々疲れましたが、たいへん盛りだくさんの内容で、興味深い研修でした。関係者の皆様、お世話になりました。今回の視察は「おいでん・さんそんセンター」さんの FB でも紹介されています。というわけで・・・さあ、書くぞ！今日の日程は以下のとおり。

7:55 分に地域事務所に集合してバスへ。10:00 香嵐渓の宮町駐車場で、名古屋大学の高野先生と「おいでんさんそんセンター」チーフコーディネーターの西田さんと合流。お二人、バスへ。



10:15 豊田市里山くらし体験館～すげの里～へ 囲炉裏あり、薪ストーブあり、宿泊できる部屋ありと、とてもらやましい施設。こうした拠点があるのはいいですね～。



10:45 旭地区の福蔵寺で移住者・戸田友介さんの話を聞く

1人で30いくつものお役目やら仕事やらをしているという戸田さん。無住になったお寺の管理もされているそう。忙しいといいながらも、田舎暮らしがとても楽しそうでした。もうすこし、ゆっくりお話を聞きたかったです。



味噌煮込み中

11:30 敷島会館で鈴木センター長の話を聞く



昼食 豊田市の稲武に移住した木工家・松島修平さんと奥さんの知美さん(トミーさん)

トミーさんのお弁当をいただく。松島さん(なんと、なずなと同じ苗字!)は、FBのフレンドさんで、こんなかたちでお会いできるなんて、嬉しい偶然でした。

4月4日、稲武の道の駅のそばでギャラリーカフェ「ヒトキ」をオープンされるそうです。



13:15 千年持続学校「宇宙(そら)の家」見学 家主の下野さんの話を聞く



昔の大地主さんの家で、今は簡易宿泊施設になっているそうです。



微生物をつかった浄化槽

14:00 東荻平町の公民館で、移住・定住に率先して取り組んでこられた安藤さんにお話を聞く。

安藤さんは最初、たった一人で空き家の確保に乗り出したのだそう。その理由は、どんどん空き家が増えていく中で、10年後の地域を考えたらずっとしたからだそう。いちはやく集落消滅の危機感を感じた安藤さんは、空き家の持ち主に直談判し、「なにかあったらうちを貸してもらえないか」と頼むことから始められました。

結果、そのことが旭地区の移住促進につながり、豊田市の空き家バンクが設立されるきっかけになったということでした。



とにかく、いろいろな立場の方にいろいろなお話を聞く中で、豊田市が過疎化の進む農山村の活性化に力を入れるようになった背景が浮かび上がってきました。合併して40万都市になった豊田市ですが、それに先立つ2000年9月の東海豪雨で都市部はたいへんな被害を受けました。そこで都市を守るために上流域の山林を守ろうということになったのです。そのためには農山村の活性化をはかることが急務であるとして豊田市は資金を投入して農山村のインフラ整備や施設の充実などにつとめてきました。

そして、2005年の合併により、獣害対策の資金や設備の援助・補助事業なども行うようになったのです。

しかし、過疎化や農山村振興はお金を投入するだけでは解決しないことに気づき、アプローチの仕方を変えなければ・・・ということになりました。これまでの施策は、農山村のありようを都市部に近づけるということでやってきましたが、実はそうではなくて、都市と農山村の交流をはかり、いなからしさをさらにブラッシュアップすることでその良さを引き出すことに努めるようになったということでした。では、田舎らしさってなんでしょう？**いなかは不便だけれど、まちとは違った意味で豊かさがある**これは、今日、「おいでん・さんそんセンター」の鈴木センター長がおっしゃった言葉です。そして競い合う生活から、互いに支え合う生活へ

今日1日でとても多くのことをいろいろな方から学びました。

今後は、これらをいかに地域に還元し、今後も多良を上石津を存続させるために生かしていくかということです。**最初の一步がとても大切ですね。**

えぼしの里便りより

2015年02月27日(金) 08時55分32秒

移住定住プロジェクト研修視察(2月21日)

.....上石津まちづくり協議会では移住定住プロジェクトが発足し

第1回研修 入門編 第2回研修 実践編

に続く研修の締めくくりとして、21日は豊田市中山間部の足助地区、旭地区へ、視察に行ってきました
7時45分時支所出発！上石津全体で総勢33名の大世帯です 9時50分 香嵐渓の駐車場到着
講師の高野先生と、おいでんさんそんセンターの西田さんと合流！



10時5分 里山くらし体験館 すげの里



都市と農山村が交流し中山間地域が元気になるためにつくられた施設

計画には住民の意見もとりにいれたようです。里山をいかした体験事業などを開催されています
エコにこだわり、ひのき風呂、囲炉裏、薪ストーブ、ピオトープ





日本一華奢で小柄で綺麗なボイラーウーマンの私は、薪ボイラーに異常に反応してしまいました(笑)



10時50分 福蔵寺 M-easyの戸田さん



「続・日本再発進！若者よ田舎をめざそうプロジェクト」で旭地区に移住
みんなそれぞれが地域のことを自分のことだと考えて答えを出していけるように
自然を学びながら暮らすための様々な体験事業を開催されています

たくさんの村役も引き受けていらっしゃるようで
旭木の駅プロジェクトの事務局も担当されていました
同じ木の駅の事務局として名刺交換させて頂きましたよ🍡

この日はみそ作り体験の準備をされていました



11時35分

敷島会館

おいでんさんそんセンターの鈴木センター長さんに

「農山村地域の現状と課題」と題した講義をしていただきました



豊田市や地域の概要、現状、取り組みなど、ていねいに、熱く語っていただき
都市と山村がお互いのいい部分をいかして、いろんな暮らし方ができる町
支え合う町、素敵な言葉が印象に残りました

12時25分 昼食

研修会場でまことにまった昼食です。お弁当作りを始めた小町会代表としては
かなり興味がありまして(笑)

で、この日のお弁当は稲武地区に移住され家具などの木工品を製作されている

松島さん夫妻手づくりのお弁当!!!!高野先生の別名は大豆先生と言う事で

この日のご飯は大豆ご飯 どれもとっても身体に優しい味で

健康になる事間違いないお弁当でした



4月にはカフェをオープンされる予定の松島さんご夫婦
小町が行きたい場所の一つになりました

..... その松島さんご夫婦の素敵な HP はこちらです → [first-hand](#)

13時10分

千年持続学校「宇宙(そら)の家」下野さん

写真はその下野さん宅へ行く様子 決して登山風景じゃありませんよ



移住したいんだけど、空き家がない・・・。

じゃー、作ってしまおうと、「家づくりの講座」を開講

自然エネルギーや大工さんの技術を学びながら

みんなでこの家をつくったそうです



移住を希望する受講生の中から 下野さんが選ばれて住みはじめました



太陽光発電だけで暮らしに必要な電気だけをまかなう！井戸、かまど、まきストーブ、微生物の浄化槽……名古屋大学と企業が共同で行っている生活実験です。下野さんに不便じゃないですか？と質問したら、不便さより、子育ての環境が良いのでその事の方が優先なんで楽しいですよと ここでも素敵な言葉に出会えました♡

下野さんのお隣には、古民家のお試し体験ハウス「板取の家」がありました



14時 東萩平地区 公民館で移住定住に取り組む 安藤さんのお話を聞きました



市役所を早期退職して、ひとりで空き家対策をはじめられたそうです

「自分の課題は自分で解決する」「地元民とよそものが地域をささえる仕組みをつくる!」「地域おこしはパートナーを増やす」強い意志と故郷を思う気持ちが伝わってきました

お話のあとは、地域の空き家を案内していただきました



2回の研修で勉強したことを高野先生に付いていただき、現地でさらに確認する

贅沢で盛り沢山の内容でおなかいっぱいになりました。すごい人ばかりで、衝撃的!

豊田市は大きな市だからな一って思っていたのですが、行政の協力も必要ですが自分たちがやるか、やらないか、そして、やる仲間をふやしていく事も大切!! 上石津でも、もうはじめている部分もあるし 少しずつかもしれないけど絶対にできると思います。こんな中身の濃い視察に参加出来た事高野先生や受け入れ先の皆さん。まちづくり協議会の皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです

2月21日開催 先進地視察アンケート回答

27（アンケート提出数）／33（参加者数）

回収率81, 8%

今回の視察で、興味深かった、関心を持った点とその理由をお聞かせ下さい。

- 直接的移住定住はもちろんだが、地域の周辺環境整備が大切と知る。地域を明るくし、受け入れる気持ちに余裕を感じた。田、林などの里山に力を注ぐこと＝田舎の良さを磨き上げる。
- それぞれの方が、自分の持ち場で自信を持ち、がんばっておられる点がすばらしい。よそ者が地域に自然に根付くにはどうしたらいいかのヒントになった。やっぱり豊田市（トヨタグループ）ちょっと手かとどかないか?!)
- 情熱のある地域の人たちの言葉が素晴らしい。全てに感銘を受けた。
- 山の上まで見事に耕作されていたこと、意欲を持った人が多い。
- 移住者の目の付けどころ→180度自分と違っていた。農地がある、ポットントイレ、土間のある生活、天井がない方がいい、買い取りに400万円～500万円支払う。＝快適さより自分らしい自由な生き方を選ぶ人が多い。
- 動き、システム、施策……。地域と行政とのいい関係。ここまで来るには、いわゆる、移住定住事業レジェンドたちのすさまじい熱意と努力があったに違いない。精神論を語りたくないが、「自分たちのことは自分たちで」「地域を守る」といった信念が根底にあることがよくわかった。
- 上石津より周辺環境は悪いと思った。しかし、だからこそその必死さが伝わってきた。表面はクールい感じに、でも芯はすごく合理的な計画された基準があって、参加している人に負担を感じさせないように配慮もあった。自己犠牲なのでは？と感じるところも、本人たちは楽しんでいるといていたことは、活動が長く深く続けていく原動力であり、その人達に寄り添う支援を行うのが、うまくいくコツだとわかった。本当に住みたい人を対象にしないと、何でもアリとなるため、ひやかしは相手にしない。良い面悪い面を理解できる人だけ移住してもらえれば良いとのこと。
- 移住定住に取り組みをしている方々の温度差がないのがうらやましく思った。
- 農山村振興に向けた取組。・定住促進取組：分譲地整備、空き家情報バンク制度、住宅取得費補助、住宅運用整備、・地域資源をいかした産業振興：集落営農の推進、農地バンク制度。※熱き思いを持った人材の発掘、地域おこしは人の数で決まる。
- 30歳代で価値観の違う人が存在するという事実。＝正社員という地位より自分の時間（生き方）を大切にするという人がいるという事実。←こんな人は上石津にも移住してくれるはず。「家に入れるのではなく地域に入れる」という事業が印象的。東萩平の安藤さんのお話には賛同してしまった。
- 安藤さんの、「トイレが外にある家の希望者のほうが多かった」という話に驚いた。市の援助が100万円あるときき、うらやましいと思った。
- 暮らしの参観日素晴らしい。自分たちで決めるところがすごい。
- 高野先生の研修会で十分な予備知識を得たので、現地へ行っても取り組みがよく伝わってきた。
- 移住者の方々がみんなほのぼのとしていて、心にゆとりをもって、いなか暮らしを楽しんでいる。

- 移住している人は共通の雰囲気がある。私の世代はまず経済を考えるのが普通と思っていたが、彼らは人間らしい生き方というか自然のまま、あるがまま、しかし、人と人のつながりも重視しながらの生活を求めているようで、移住定住に取り組む考え方を変えないといけないと思った。住が一番？。都会に住みたくない人もたくさんいて、その人たちがターゲット！！シェアハウスも楽しい？他人が来てもオープン？（なかなかついていけないが）しかし、会った人は学歴も高く、いろんな技術を持っていて、そんな中で自然と生きていく知恵も出てくるのか？
- 敷島自治区の平成27年度計画作りが素晴らしい。連合自治会の総会といえば、従来の議案で粛々と進めて終了する。しかし、足元を見た、色々議論される事が最大の議事であることを知る。＝地域のエネルギーになっていると思う。
- すげの里鈴木さん「自分の世代で山を荒らしてしまった」子どものため山をきれいにする、そしてやっている。すごい 又小さな集落でがんばっているすごいリーダー。
- 東萩平地区の移住希望者に対する受け入れ側のスタンスに感銘を受けた。活性化につながる人を選ぶ（人材を増やす）。独居老人のお世話をしながら空き家対策について話しておく。地域が受け入れ体勢を整えておく。自分の課題はひとにまかせず、自分で解決する心構え。移住者（よそ者）が地域を変えていくときがくる。
- 移住者募集のイベント。開催してみたい。
- 上石津より不便ではないかと思われる地域に移住している事実をきくことができ、上石津の取り組みが今以上に「やれば出来る」気がした。
- リーダーの有無によって地域は変わる（安藤さんや鈴木さんの話をきいて）
- 山の手入れが行き届いていること。この頃は若い人は山に感心がなくなり年に1回の村役も段々と少なくなってきた。木は安いので手入れをしない。
- 移住された方の表情が生き生きとしていたのが印象に残った。移住定住にかかわっている人たちの地域への愛着、熱意を感じた。
- 移住者のゆとり、豊かさ、生き生きとした目がとても印象的。暮らすということとはなんなのか。
- 自分たちの地域を活性化しようと若い人たちも参加され、荒田、放棄農地などを活用し、里山塾をつくられ年間の参加者が多いことなど。もう一度6次産業に取り組むことの大切さを思った。近くに豊田市という大きな自治体があるから事業ができるのではないか。私たちの地域では？
- 立派な大学を卒業され、あのように熱心に地元にとけこみ一生の住み家とされていることにびっくりであり、もう生まれたときから地元で思うと何事も一生懸命に取り組む大切さと共に、上石津も雨宮さんのような方がみえたら若い人考えが違ってくるのではないか。新風を入れることの大切さを思いました。
- 鈴木センター長の「いなかは不便だが都会にはない豊かさがある」の言葉が印象的。その豊かさがなんなのか考えないといけない。移住者もそれに魅かれてきたと思う。都会にはない人間らしい暮らし、競争しなくても生きていける半農の暮らし。お金がなくても畑や田んぼがあれば自給自足できるし、暮らしていけるところも田舎の魅力なのだろう。これまでとは違った観光のありかたを考える必要がある。それならば、取り立ててアピールするものがない上石津でも充分可能だと思う。

- 東萩平の空き家対策について、やはり中心になる方の努力がいかに大切かと感じました。
- 山や田が維持されていて、景観というよりこの地で生活が行われている感が伝わってきた
- 間伐が丁寧に行われていたことが印象に残った。
- 山の手入れが行き届いていた。素晴らしい
- 山や田畑が守られていることがバスの中から見ただけでわかった。すごいと思う。
- 山村に住みたいと思う街の方が有ることにうれしく思った。宣伝すれば募れる思いがした。
- 安藤さんのように両者の交流をもつことが大切であることがわかった。要は地域の活性化を願うものを選出して活動をはじめること。
- 地域の受け入れ体制として、人口を増やすより人材を増やす！なるほどと思った。安藤さんとの会話の中で「草刈する人ふえてほしい」一言。人口が減って困るからと思っていたがちがっていた。
- 一番すごいと感じたのは東萩平地区の安藤さん。田舎の昔からの地域に、他から人を連れてくるのは大変なこと。あれだけ割切って、信念を持たないとできないと感じた。トラブルのリスクが非常に高いので、誰でもいいから入ってほしいというのは間違いというのは共感できる。地域になじもうとしない人、自分の権利ばかりを主張する人が地縁団体に入ってもプラスになることはなにもないし、問題をかかえるだけ。人選をやるというのも、地域を本当に真剣に考えているからだと思う。
- 「山や畑をあらしたのは私たちの世代」そのとおり。
- 足助・旭からみると上石津は、どの地域も交通の便は良く、里山としても美しく点在しています。人の気質も温厚で世話好きが多い。今、人は都会の生活で格差社会に矛盾を感じ苦しんでいる人が多い。適当な不便さの中に安らぎを求めている気がします。豊かな里山を求めて、人間とは、私とは、家族とは、
- 情熱や精神論だけでなく具体的に戦略をもち動き動きつつけている、安藤さんや地域がすごい。
- 間伐が進んでいて、間伐材の有効利用（木材の販売、チップ、薪ストーブの燃料など）と植林の美観の素晴らしさに感動。手入れが行き届いている。間伐の条件としては最適場所、環境である。宇宙（そらの家はまさに、自然エネルギーが活かされ住みたくなる様な昔を思い出させる素晴らしい体験で感動した。
- 「暮らしの作法」各自治会がつくったら素晴らしい。
- しきしまときめきプラン！しきしま暮らしの作法　すごい素晴らしい。作法という名のルール！まねをさせてもらうべきだと思いました。
- 今回であった移住者のみなさん、ゆるくて、のほほんに見えるが、村役も積極的に行い、ある意味、地元民以上に、この地で生きていく覚悟覚があるのだと思う。価値観が違うと思ったが、移住者のみなさんは、地元民の価値観もしっかりと理解して受け入れているのだと思う。

今回の視察全般について、感想をお聞かせ下さい。

(良かった点・悪かった点など)

- 上石津の現状のレベルが確認できた。
- 自然エネルギー普及のやり方がすばらしい。豊富な自然資源を（宝）を十分に生かしている。現場を視察してわかった。豊田市と地域柄財政的に恵まれ、無駄な部分もあり完全とは言えないが、人間力がすばらしい。
- すげの里の上石津版がぜひほしい。大垣市ならできる。もう体験プログラムはたくさんある。
- 山が（急傾斜地はないが）本当にきれいに整備されていた。
- 上石津よりずっと高齢化が進み、限界集落の状況にあったにもかかわらず、移住者の受け入れにより里山が守られている。上石津ならば対策をとれば充分受け入れが可能な地域である。
- 今後の地域づくりのあり方、段々と若い人が出ていき、空き家になっていくのは見えているのですが、その現状を見ているのではなく、まず自分が動くことの大切さを感じ、自分の生き方を変えていきたいと思った。視察は良かったです。山村のこれからの生き方を考えることが多くあった。
- 対象の選択が良かったが、少しタイトでした。
- 盛りだくさんの内容で充実していたが少し件数が多かった気もする。件数を減らしてひとつのところでゆっくり話を聞きたかった。
- 日程が細かく決められ、わかりやすかった。
- 新聞などで市町村の取り組みが報道されているが、それは行政の取り組み（例えば予算付け等）が中心であり、実際に地域の人が行っていることを生に聞くことができ良かった
- 移住してきた若い人達が「何故その地を選んだのか」その理由を聞いて、私の価値観に幅ができたような気がした。
- 地元に住むものがみた地域と、移住者がみた地域が全くちがうこと、何が素晴らしいところか、いろいろな価値観があることを、あらためて理解しなければいけないと思った。
- 東萩平町 安藤さんの取り組み方について感動した。地域を動かすには揺るぎない信念が必要だと思った。
- 安藤さんの生き様に驚いた。安藤さんにはなれそうもないが、多くの仲間をつくれればできると思う。
- 現地の人の生の声を数多く聞け、充実した研修だった。
- 視察の内容が本当に良くて、タイトさを感じさせないほど充実した研修だった。高野先生の全面的バックアップが素晴らしかった。33名もの大人数で視察したことで、イメージの共有も高いはず。今後の活動にはずみがついた。
- 市役所方も積極的に参加していただいたことが良かったと思う。
- 各地区から多数参加され、市の職員も多かったこと。先進的取り組みを目で見てさらに呼び込む側と移住してきた側、両方の声が聞けたこと。時間がたつのを忘れる位に内容が濃かった（もっと若手の人にもきてほしかった。）
- さすが豊田市、うらやましい。
- それぞれが、すごい人たちである。超前向き、苦労話しをしない！

- 移住者の声がかけたことがよかった。多くはきいてないが、価値観の多様性が感じとれた。
- 良くも悪くも特に施設等やインセンティブを含む諸政策にトヨタの影を感じました。
- 相手は天下の豊田市。大垣市ごときではたちうちできない！と思いきや、地域での活動は地域自らがやっている。これはすごい。
- 暮らしの作法のような小さな単位での地域のルールづくりは必要。
- 自営業でなければ、山村への移住はむづかしいのか？
- 研修会も視察もすべて高野先生のおかげです。ありがとうございました。
- 高野先生を講師として選んだ執行部は素晴らしい、ここからは各自と地域のやる気次第。
- 名簿はいただいていたが、知らない方もみえたので、名札があればなおよかった。
- 昼食、体にととても良い食物と思いました。話を聞く事より、目でみて耳できいたことがとてもよかった。面接時（移住者を選ぶ面接）「勘です」の言葉が何となくわかりました。
- 昼食の手づくり弁当は今一でした。
- 後から昼食の内容、値段に不満の意見を聞いたが、今回は前もってお知らせしていただいたように、昼食も研修のひとつ。こういった内容で生業を立てている移住者の紹介ということに、何故気づかないのか！！！！視察先のみなさんに恥ずかしい、残念。
- 同じ様な悩みであり、今後のまちづくりについて参考となるが多かった。
- 百聞は一見にしかず。自分の目で観て直接話を聞くことは大変良いことです。
- とにかく里山が明るかった
- 上石津は里山であるが、視察地に比べると交通の便が大変良い。これは長所。
- 事前資料まで準備していただき、高野先生の案内で現地で充実した研修ができた
- 2ステップ学習を経ての現地研修。こんな研修ははじめて、素晴らしかった。
- 正直言って私は、今回の研修に消極的で、一回目の研修だけで十分と思い、視察まで行かなくても思っていました。入門編で知識を得、実践編でもう一步踏み込み、そして現地へ。素晴らしい研修でした。また、視察に行くためには従来の予算では足りないため県の補助金を取りにいったとうこと、(参加者負担金を1人1万円徴収したとしても個人的にも得るものがたくさんあったと思います。)人口減少、空き家問題。上石津をなんとかしようという協議会役員の積極的な姿勢に頭が下がります。一步でも前に進むように、微力ながら協力したい。
- 大学を卒業して30年以上すぎましたが、今回の入門、実践、視察は4年の時のゼミを終了したくらい(それ以上に)すごい内容でした。高野ゼミ。本来ならば卒論を書かなければならないのですが、そのかわりに、地域にいかしていかなければいけないと思いました。できれば高野ゼミ修士課程に進みたい。
- 移住定住という言葉は、未来を感じさせる希望の言葉である半面、現実を直視しなければならない重い言葉でもあったと感じました。ひとりでは重いですが、多くの仲間といっしょならば、希望の言葉にできるはず。
- 先進地なんて成功した数少ない例だと思っていたが、今回の視察で、地域の「人」の熱意がその根源にあることを知り。頭を殴られたようだった。みんなはどう感じたのだろうか。

- 高野先生やスタッフのリーダーシップにより、短時間の中であれだけ多くの人達が移住定住問題に関心を持ち、先進地に視察訪問したこと、上石津地域全域に危機感がでてきたのでしょうか、刺激を受けました。
- すごい研修、視察であった。すごすぎて文章にできない。なにより高野先生が上石津に来てくれたことが我々の大きな財産になったと思う。
- 自分たちの将来について今になって私も含めて集落の維持について等考えを新たにするキッカケとなりました。5年先、10年先を見つめたときを考えると今が最後のチャンス。共有できるスタッフをできるだけ集めてこの視察研修の意義を考えていきたいと思います。
- 「足助に遊びに行ってくる」と家族に言って、観光気分で今回の視察に参加した。反省、反省、自分か恥ずかしい。具沢山（ぐたくさん）の内容に次第に吸い込まれ、あっという間に時間が過ぎた。この充実感と衝撃はなんだろう。こんな視察ははじめて経験した。夜、名古屋にいる娘に電話した。
- 高野博士との出会いを上石津が動くきっかけにしたいと思います。
- 高野先生の講義は学術的、実践に裏付けされた大学教授の講義なのだが、親しみやすさと、わかりやすさで、引きこまれていきました。内に秘めた情熱もしっかりと伝わりました。豊田の人たちと高野先生とのいい関係が素敵でした。「いっしょにやってきた。やっている」という信頼関係なのでしょう
- 今回の企画！大変お疲れ様でした。内容的にとっても充実しており、今回の視察先に感化され、一人でもやってみようという人がでてくればいいなあと思います。
- 私の思っていることそのことが聞けて良かった。
- 交流の仕方が具体的で、そうだ、思い込みをなくして、本音で話し合えば理解していただいだけ、そういう人が移住すればトラブルも少なくなるように思った（気づかされた）
- 高野先生、こんな素晴らしい方にであえたことに感謝したいです。私も含め、参加したみんなが高野学級の生徒として、生徒にふさわしい活動を行っていかなければ、上石津の品格？が問われる。

視察を終えて、上石津地域のこれからの移住定住の取り組みについて自由なご意見をお聞かせ下さい

- 自分たちの子どもたちがどうなるのか この活動をつづける難しさを感じました。
- 4地区での同一の取り組みの重要性。又は各地区での異なる取り組みへの理解が必須。上石津独自の意識や施策を検討する。
- 空き家バンクと豊田市の100万円補助金を参考にした移住定住促進システムの構築。
- 移住定住先進地では、移住者に対して行政が支援制度を設けている。このプロジェクトで先進事例を参考に上石津地域への移住者に適した支援制度を検討して、上石津地域全体で市に支援制度の創設を働きかける取り組みを行ってはどうか。
- 今回の研修視察から得たことを上石津でどの様に生かすか、又キーパーソンをつくっていくか、地域の体制をどうつくっていくか、にかかっている。評論家になってほしくない。
- 10年後のアンケートぜひやるべき（やる気のある集落で）そして、高野先生にも参加していただき指導していただきたい。「ものまね」でもいい所はどんどん取り入れていく事！大切。安藤さんの名言「よそ者の知恵と力と汗をかりる」
- 移住定住に対する取り組みの方法はいくつかあることがわかったが、まず地域としてどんなことに取り組んだらよいかを4地区それぞれに検討していく必要がある。上石津として一つの共通性をもたせたいので、各地域の取り組みを。最初の移住者にどんな人を選ぶかが大切ということがよくわかった。
- やる前からあきらめているところがあるが、そういったところは変わらない。やるかやらないか。
- 行政の政策や支援、行政への要望は絶対必要だが、まずは地域が動くこと、自分たちの問題は自分たちで解決することが大事。あたりまえだが、忘れていたことを、一番大切なことを教えていただいた。
- 若者だけにこだわらず、幅広い世代にまで間口を広げていかないと進まない。全国的にもやっていることであり、魅力ある地域にするためには他地域にない特色、差別化を図らなければいけない。まず、できることから始めよう。
- 30代40代の若者が住み続けられる地域と魅力ある地域の確立をするために、世代間のつながりを無理なく作っていくまちづくりが大切。若人の参加しやすい（定期的行事）事が大事。
- 体験施設、拠点施設はうらやましいが、今ある施設、支所、緑の村、音楽村をもっとうまく活用して、地域に絶対に必要のある、動いている施設だ！とアピールしていくことが必要
- 「まちづくり講演会」、「移住定住研修」。今年度の協議会はいままでとは違った次につなぐため、自らが動くための素晴らしい内容のある事業が実施されて大変よかった。傍観、評論家になっていた私も大いに反省した。「評論家になるな」「自分たちの地域は自分たちで守る」その2つの大きな言葉を、少しずつでもいかしていきたい。オール上石津とは単に上石津1本で事業をするということではないと思う、上石津としてアピールしていくためには、各地区で今の活動をさらに磨き動くこと、その各地区の情報発信やネットワークづくり、そして今年度のような事業を行うことが、協議会の役割ではないかと感じた。各地区が批判・評論だけに終わらず自ら動けるか！今後協議会や地域の会議で批判だけや、評論だけをする方は、ご遠慮いただきたい。

- 森林という宝の山が資源が死んでいる。生かされていない。間伐を進めると木が大きく育つし荒廃しない。移住定住の雇用が確保される。
- 空き家バンクは市でつくるべき。あとは地域の活動にまかせる方が良い。貸せない、売れない、半壊の空き家をどうするのか？他人の持ち物を・・・？悩ましいことです。
- 高野先生をはなしてはいけない。今後も上石津の指導をしてほしい。
- 高野先生には、今後もなんらかの形で（協議会 特別相談役？スペシャルアドバイザー？）協議会や上石津のまちづくりにかかわっていただきたい。
- 協議会会議で良いとこ、悪いとこアンケートをやっていたのだが、各地区、各自治会でもこのアンケートを実施し、地域を見直し、自分以外の意見をきく機会をもってはと思う。
- 今回の参加者は、研修の内容を必ず地域に伝えなければいけないと思う。また各地区で自腹を切っても、もう一度今回の地へ視察にいき、共通の理解を含めることも必要かもしれない、これで動かなければ上石津はダメになる。
- このまま放置すれば、限界集落に進むこととなる。受け入れ対策に取り組めば、地理・物理・環境面からみても、この地域で住み続けたい人は十分集まってくる、住み安い地域である。
- 大垣市にもたくさんの素晴らしい企業がある。企業の地域貢献をなんとか上石津に持ってこれないか、上石津のまちづくりや農地、森林保全とタイアップできないか。大垣にとって上石津は足手まといや、お荷物と思っているのは、むしろ上石津の人たちかもしれない。あきらめ、ひねくれでは、前に進んでいかないどころか後退してしまう。大垣が上石津をみてくれないのではなく、見せようとしているのか？今、自分は何をしているのか？自問自答。
- 「しきしま暮らしの作法」とまではいかないかもしれないが、移住者を迎え入れるためだけでなく、村役、財産区、神社、寺など、これからの世代のためにも各地区、各自治会で、決め事、ルールの確認、改正、見直しを真剣に行わなければならない時期にきている。
- いま各地域で様々な素晴らしい事業が実施されている、これはすべて山村・いなか体験といってもいいと思う。これらの事業をネットワーク化して実施、PRしていこう！
- 各地区、いい意味競争して、今後の具体的な取り組みについて議論しなければいけない。
- 今後、上石津で移住定住を進める中で一番大切と思うことは地域にそれなりの魅力をつけていくこと。大垣市の中の上石津、広大な山林と清流牧田川、そこに住んでいる人間の人柄、こんな里山を求めて今後交流人口は大きく膨らんでくると思う。4地区それぞれに特色を生かしたまちづくりに頑張ります。
- 移住定住なんてことばで、大事（おおごと）、できるわけない、とっていて、まちづくり、地域づくりの新しい呼び名だと思えばいい。今までもやってきたし、今もやっている。今回の研修を機に、これからさらにどうしていくかだと思う。
- 新しく移住してこられた方を地域の人は、お仲間に入っただけのような、心使いなどを考えなければならぬ。
- 上石津4地区には、それぞれに特徴や事情がある。まずは各地区それぞれに今後について動き出すこと。今回の研修には地域のリーダー的存在が多く参加されていた。得たものを早く地域におろして動き出してほしい。

- 「しきしま暮らしの作法」を筆頭に、あるべき姿にたくさん接して逆に普通のことが多すぎ、又ひとつひとつのテーマに奥深いものがあり少々とまどっている。(全て重要で何から手を付けて・・・・・・?) しかし、できるものから一つ一つ実行、1歩前に進む……。話し合いの中でよく「それは難しい」と最初から知った顔で言う人が多々あり、そんな時は私も、出来ない話はきいてもしようがないと話を途中でさえぎって、時々いやな顔をされる事もあるが、安藤さんが言っていたように、「どうしたらできるかを優先」「反対者は絶対いる」という話に共感。本気で取り組む気持ちが大切(多くの人が、このままではいけないが、自分が口を開くことはやりたくない。しようがないと思っているという考えを変えることは大切と思うが)
- 合議制について、今まで当地では、全員賛成にむけて努力しています。今回の研修でこれが進まない、意識低下など、実現にむけてのスピード感のなさ、自然消滅やあきらめになっていると思う。移住定住で過半数合議制を使うとはびっくりした。今後上石津地域内においてもスピードをつける時が目の前に迫っていることを感じました。
- 地域の課題で「・・むつかしいな・・。」「・・昔からそうだから・・。」「・・自分が役員の間は穏便に・・。」「・・それは理想だけど・・。」とって前に進まないことが多く、先送りにされてきたこと。というより、何もしてこなかったことが、あまりにも多すぎる。もうそんなことを言っている場合ではない。次世代のためにも勇気をもって声をあげていくべきだと思った。
- 移住定住に拘わる役員のグループを作って取り組めるとよい。空家探しと交渉・入居希望者との折衝などのグループ。宣伝。
- 緑の村公園はもともと都市と山村の交流を目的につくられた施設、体験プログラムもある。移住定住の拠点。窓口としてリニューアルしてはどうか。
- 熱い精神論を内に秘めながらも表に出さず、実際にどのように行動していくか、その組織を作っていくこと。
- 4地区がそれぞれ手法を考えてやらないと一律では無理かもしれない。空き家情報の一括管理セクションをつくらなければいけない。
- 桑原会長や伊藤館長のような方が、他の地域でもでてこない、上石津全域で進めていくのは難しいと感じるが、協議会として一番やっていかなければいけないのは、移住定住事業だと思う。
システムづくり、マニュアルは必須。ただ人口減少時代にあって理想論をかかげても意味がなく、人も動かないので、今回の研修をきっかけに本気で地域に人を入れたいと思う人がでてくれば幸いだと思う。
- 各地区で徹底的に話し合いをする！ルール作りを行う。ルールは、ここだけは譲れないところを決め、幅広い価値観、多様なニーズに臨機応変に対応するための懐の深い考えを根底にもった組織を作り、動くこと。
- 時地区の桑原さんや伊藤さん、旭の安藤さんのような方を待っていてもなかなかでてこない、ならばチームで動くように、各地区早く組織作りに動かなければ。行政の愚痴を言っている暇はないと思う。
- なかなか各地域で、全く新しいことを立ち上げるのは大変、各地区の今ある施設、今やっている行事、今ある組織を生かして、さらに工夫し、ネットワークを組みながら、進んでいくように!!!!。
- 事業の拠点、シンボルがほしい。今ある施設の有効利用を。

- 「移住定住の世話には限界があり、専門業者の手を借りる必要がある」という考え方も一理ある。しかし、安藤さんの話しの中にあっただように「良いと思ったら先ず動く」これも分かる。地域としてどのような方向に向かっていくのか、共通認識を持つ必要がある。広報活動を大切にしながら、上石津の良さが「口こみ」で広がっていくことを期待したい。早く動くことが重要。
- 各地区で動き出すこと、また各自治会単位でも、今の状況把握、意識改革、ルールづくりが急務。移住者の受け入れ体勢を整えるのだが、息子などが都会へ出て行って独居になってしまっている方々が肩身の狭い思いをしないような配慮、心配りが一番大切。「・・・おまえんとこの息子は出っていっとるくせに・・・！」なんて言葉ができるようでは、話にならない。（都会から田舎への移住を希望している人もいれば、田舎から都会への移住を希望している人もいる。それは自由。それぞれの生活がある。）
- 各自治会で「空き家利用推進委員」とまではいわないが、常に地域（家、景観、人）を見ている仕組みを作っていく必要があると思う。
- 牧田、一之瀬、多良、時 各地区それぞれに各地区の予算で高野先生を呼んで、もう一度地域の多くの人たちとともに研修やワークショップを行ってもいいとも思う。
- 正直言って、動き出すのは難しいと思う。でも今回、同じ内容、同じ時間を共有した（感じ方は違ってもかもしれませんが）多くの仲間がいます。一人で動けなければ、仲間と動く。
- 5、6年後には、上石津に視察が来ることになっているかもしれない。そうでないといけない。その時は、鈴木先生や高野先生が関わった代表的な地域の成功例として引用してもらえるくらいの内容が求められるかもしれないが、まちがいなく全国区で上石津が注目される状況になっており、住民の理解も一層進むかもしれない。そうなれば、活動しやすくなり成功が成功を呼ぶ、明るい未来となっていることを願う。
- まずは、行政の力をかりないで、早急に各地域でルールと組織をつくり、空き家対策の方法を構築。当面は地域事務所で総合受け付け、各支所とネットワークを組む、ゆくゆくは緑の村を「おいでんさんそんセンター」的な施設にするのはどうか。コーディネータとしての人材育成も必要だが。
- 4地区の考え、温度差をそろえる必要がある。
- 各地区の自治会やまちづくりの団体が共同で話し合いをし、すぐにも動いていくべきだと思う。地域のリーダーの力量が問われますが、私も積極的に参加しリーダーを支え協力したいと思います。
- とにかく、牧田、一之瀬、多良、時がそれぞれに動き出すこと。

キーワード

○高野先生

○すごい人物 信念 情熱

- ・すげの里の鈴木さん、
- ・東萩平町安藤さん
- ・おいでんさんそんセンター長鈴木さん

○言葉

- ・「自分の世代で山を荒らしてしまった」
- ・「家に入れるのではなく地域に入れる」
- ・「人口を増やすのではなく人材を増やす」
- ・「自分の課題は自分で解決する。人に頼るな」
- ・「地域おこしは人の数」
- ・「よそ者の知恵と力と汗を借りる」

○豊田市の移住定住施策、補助事業

○移住者の価値観と地域住民の価値観

○山林、農地、景観の保全

○拠点施設

○地域のルール＝しきしま暮らしの作法

○4地域それぞれの特徴ある取り組みとネットワーク

○各地域で早く動き出す